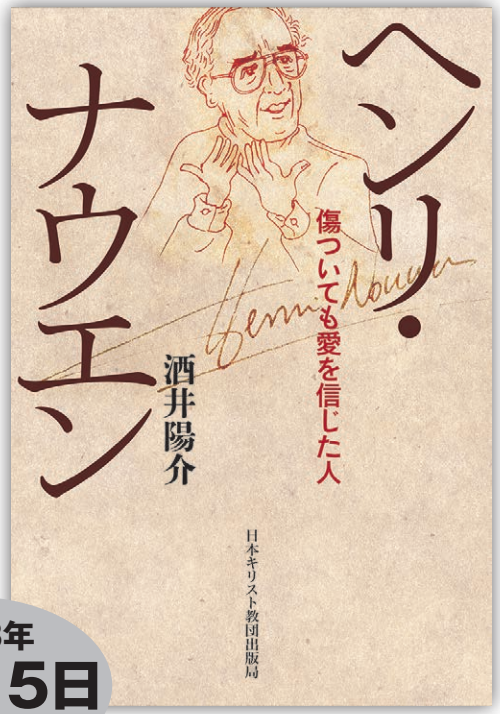
ヘンリ・ナウエン　傷ついても愛を信じた人

酒井陽介（さかいようすけ）**著**

イエズス会司祭。1971年、横浜に生まれる。2001年、司祭叙階。2018年、教皇庁立グレゴリアン大学心理学科博士課程修了（心理学博士）。2020年、教皇庁立グレゴリアン大学心理学科講師。2022年、上智大学神学部・上智大学大学院実践宗教学研究科准教授。ヘンリ・ナウエン『今日のパン、明日の糧　暮らしにいのちを吹きこむ366のことば』『傷ついた癒やし人　新版』（共に日本キリスト教団出版局）の解説を執筆。



20世紀を代表する霊的指導者ヘンリ・ナウエン。現代世界で傷だらけになって神を求め続けた、その生涯と信仰を、ナウエン研究の第一人者がわかりやすく描く。ナウエンファンにも、これから読む人にも必読の書。神の愛が見えにくく、魂の飢え渇く今こそ、ナウエンに聴こう！

四六判・並製・168頁・定価1,980円（本体1,800円＋税）

ISBN978-4-8184-1152-4　C0016

2023年12月15日 刊行予定

目次

序章　ヘンリ・ナウエンの霊性と現代
なぜ、ヘンリ・ナウエンなのか／ヘンリ・ナウエンの魅力
第一章　霊性の変遷
二十世紀の霊性／母国オランダの教会の状況――ナウエンを育んだ社会的・宗教的土壌／大戦後の北アメリカにおける霊性の変遷／キリスト教霊性とは
第二章　ナウエンの人生の素描と作品に見る霊的変遷
幼少・青年時代（1932-51年）／大神学校・新司祭時代、そして心理学の学び（1951-64年）／アメリカにおける心理学の研鑽（1964-66年）／ノートルダム大学、そして再び本国オランダで（1966-70年）／イェール神学大学院にて（19971-81年）／ラテンアメリカにて（1981-82年）／ハーバード神学大学院にて（1982-86年）／ラルシュに「家」を見つける（1986-90年）／再びデイブレイク共同体にて（1990-96年）
第三章　ナウエンの霊性の特徴
その霊性の特徴／孤独との付き合い　LonelinessからSolitudeへ／愛されていることの自覚――無力感からの出発／友情の証し――友のためにいのちを捨てる愛への葛藤
第四章　ナウエンの霊性の神学的・人間学的考察
満たされないことへの葛藤／未完の欲求を生き抜く／イエスの選択――未完の欲求の実り／ナウエンとキリスト／キリストの復活の証し人
第五章　傷ついた癒やし人――ヘンリ・ナウエン
傷ついた癒やし人／ナウエンとセクシュアリティ／ナウエンのパラドックス／ナウエンと霊的同伴
終章　ナウエンから現代日本に生きる私たちへ